はこぶね
号外87
日本聖公会　東京教区
聖パウロ教会　にちようがっこう
〒153-0053　目黒区五本木 2-20-1
でんわ：03-3710-6031
発行日
2022年
3月13日

今週のお祈り 大斎節第２主日特祷

全能の神よ、わたしたちには自らを助ける力のないことをあなたは知っておられます。どうか外は体を損なうすべての災いを防ぎ、内は魂を襲う悪念を除いてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

十字架の道行き。それはご自分の命が失われても、すべての人々のために、神様が計画された救いの業を最後まで果たそうとイエスさまが歩まれた道です。大斎節の間、十字架上のイエスさまを仰ぎつつ祈りましょう。

今週の聖書 ルカによる福音書 13：31～35

31 ちょうどその時、ファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに言った。「ここを立ち去ってください。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」32 イエスは言われた。「行って、あの狐に、『私は今日も明日も三日目も、悪霊を追い出し、癒やしを行うことをやめない』と伝えよ。33 ともかく、私は、今日も明日も、その次の日も進んで行かねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。34 エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めんどりが雛を羽の下に集めるように、私はお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。35 見よ、お前たちの家は見捨てられる。言っておくが、お前たちは、『主の名によって来られる方に、祝福があるように』と言う時が来るまで、決して私を見ることはない。」

聖書からのメッセージ　「イエスさまの道」　司祭 池 星熙

本日の福音書ではファリサイ派の人々数人がイエスさまの所に来て、ユダヤの王であるヘロデがイエスさまを殺そうとしているという話を伝えます。イエスさまの名前が、イスラエルの民の間に広がり、イエスさま自身は望んでおられなかったけれども、イスラエルの民の新しい救い主、あるいは能力のある予言者であるとうわさされていることを、おそらくヘロデは知ったようです。そこでヘロデは、イエスさまが王である自分よりも人気があり、民衆から支持を受けて自分の立場が危うくなってしまうのでは、と思ったようです。もちろん、イスラエルの人々は、きっとイエスさまが今の苦しくて不安な世の中を変えてくださると期待していたと思われます。イスラエルを統治するヘロデ王にとって、この事実は確かに危機でした。イエスさまは「私は今日も明日も三日目も」遠くて大変な道が続いていても、進んでいかねばならないとおっしゃいました。たとえ、自分の生涯が終わってしまうことになっても、力がなくて人生に疲れた人々を愛し、癒すことを決してやめないという誓いなのです。